

## 生徒より

■太鼓の音を聞くと、日常のちょっとしたこととかが消えてなくなりました。体育館中に響くあの音は、今でも心の中に響いています。太鼓はピアノなどと違って音が変わらないと今まで思っていたのですが、そのイメージが今日変わりました。たくさんの太鼓や篠笛からなる音は本当に「日本」という感じがしました。

■楽しかった。体が勝手に動いて心の底からエネルギーが沸き上がってきた。自分も太鼓を叩いてみたくなった。太鼓の振動がまだ体に残っていて、この感じを忘れたくないと思った。最後、舞台上で踊れて最高でした。「志多ら」のメンバーと一体となった感じがたまらなかった。また「志多ら」のメンバーに会いたい。

■私が思ったことは、太鼓の音とはなんと素晴らしいのだろう、ということでした。鼓膜を震わせ、心臓に直接響くような重低音がとて心地よく感じられ、実に落ち着いた気分になりました。けれど、それと同時に激しい感情にも駆られ、心の中は言葉では言い表せない程大騒ぎになっていました。太鼓の音や演奏者の姿勢に思わず終始きつく手を握り締め、目を舞台から離せず、言葉を発することさえためらわれて何も話せずにいました。何故か涙がこみあげてくる場面もあり太鼓の凄さを感じました。本当にありがとうございました。

## 先生より

■心に響く音で、芸術性の高さを感じました。舞台の準備も流れるような美しさでした。

■多彩な内容に飽きることがなくよかったですと思います。音楽と古典芸能の両方の要素があり、生徒も参加できたので満足しています。

■身近に和太鼓の演奏を聴く・見る機会のない生徒達が殆どです。日本の伝統音楽の良さや魅力を改めて知ることが出来たと思います。何より、躍動感あふれるリズムや拍子に、体が自然に動き出す感動を覚えたようです。

■生徒の感想を読むと、「太鼓」と聞いてあまり期待していなかった者も最初の演目から魅せられ、最後まで飽きずに鑑賞した様子がよく分かります。

「志多ら」の演奏技術はもとより、「聞かせ方」「見せ方」のうまさ、ほとんどの生徒を楽しませることに成功したのでしょうか。単純に楽しかった、ということだけでなく、「日本文化の良さを知ることができた」「勉強になった」という感想もあり、「志多ら」の演奏は、生徒の心に訴える力があつたといえます。特に音楽科の生徒は、演奏する"姿勢"も学んだようです。